

為替週間展望 = ドル円は緩やかに上昇基調で推移か

[10月3日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		9月26日～9月30日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	143.34	144.90(27)	143.27(26)	144.47	+1.16
ユーロ・ドル	0.9680	0.9844(30)	0.9536(28)	0.9810	+0.0123

国内株・金利 / 米国株・金利		終値		前週末比	
日経平均株価	25,937.21	-1216.62	日本10年債利回り	0.251	+0.014
ダウ平均株価	29,225.61	-364.80	米10年債利回り	3.786	+0.101

<来週の主要経済統計等>

- 3日 日銀短観 (9月調査)
 - スイス9月消費者物価指数
 - 独9月製造業PMI確報値、ユーロ圏9月製造業PMI確報値
 - 英9月製造業PMI確報値
 - 米9月製造業PMI確報値
 - 米9月ISM製造業景況指数、米8月建設支出
 - 臨時国会召集 岸田首相が所信表明演説
- 4日 豪8月住宅建設許可件数
 - 豪中銀 (RBA) 政策金利
 - ユーロ圏8月生産者物価指数
 - 米8月製造業受注
- 5日 NZ準備銀行 (RBNZ) 政策金利
 - 独8月貿易収支
 - 独9月非製造業PMI確報値、ユーロ圏9月非製造業PMI確報値
 - 英9月非製造業PMI確報値
 - 米9月ADP雇用統計
 - カナダ8月貿易収支
 - 米8月貿易収支
 - 米9月サービス業PMI確報値
 - 米9月ISM非製造業景況指数
 - OPECプラスの閣僚級会合
- 6日 豪8月貿易収支
 - 独8月製造業受注指数
 - ユーロ圏8月小売売上高指数
 - 米新規失業保険申請件数
 - カナダ9月Ivey購買部協会指数
 - 日銀支店長会議 10月の地域経済報告 (さくらレポート) 公表
- 7日 日本8月勤労者世帯家計調査
 - 日本8月景気動向指数
 - スイス9月雇用統計
 - 独8月鉱工業生産指数
 - カナダ9月雇用統計
 - 米9月雇用統計

【前回のレビュー】FRBによる積極的な利上げ姿勢はドルを支える要因となる。日米の金融当局によるスタンスの違いから、円はドルと比べて相対的に弱い地合いが継続するとみられるため、ドル円はもみ合いながら上値を迫る展開になりそうとした。

【英中銀の国債買い入れ発表による利回り低下は一時的】

9月21日の米連邦公開市場委員会（FOMC）の政策金利発表では、米連邦準備制度理事会（FRB）が3会合連続での0.75%の利上げに動いた。年内はあと1.25%の利上げが見込まれており、11月の会合で0.75%、12月の会合で0.5%の利上げがあるとの見方が広がっている。なお、翌22日は香港、ノルウェー、スイス、台湾、英国、南アなどが利上げに動いた。

各国ともにインフレを抑えるために利上げに動いており、これが世界的な景気減速につながるの見方につながっている。各国の株価は調整局面となっている。

ドルの強さが際立っており、ドルインデックスは9月26～28日には約20年ぶりの高値圏まで上昇した。なお、その後はそれまでのドル高の反動から上昇一服となっている。そうした中、日銀は緩和的な姿勢を継続していることで、ドル円は底固く推移している。政府による介入警戒感が一本調子でのドル円の上昇を抑えているものの、日米の金融政策の違いはドル円の下支え要因となっている。

ドル円は政府・日銀によるドル売り円買い介入で、9月22日に146円手前から140.30台まで値を崩した。ただ、その後は戻り歩調で推移しており、144円台を回復している。もっとも145円接近では介入警戒感もあり、上値を抑えられやすい動きを見せている。

英国債の利回り上昇が続いていたため、28日に英中銀（BOE）は市場の秩序を回復するため、長期国債を買い入れると発表した。9月28日からの一時的な措置となる。また、当初予定していた英国債の売却開始を10月31日まで延期するとしている。一連の発表を受けて、英10年債利回りは4.5%台から4.0%前後まで低下した。なお、この後、市場は落ち着きを取り戻しつつある。

28日の英中銀による国債買い入れ措置の発表が市場に安心感を与えて、ポンドドルは1.05台から1.09台まで上昇した。その後もポンド買いの安心感につながり、30日には1.12台前半まで上昇している。ポンド円は28日の152円台半ばから、30日には161円台後半まで上昇している。

ドル円は28日に米長期金利の低下を受けて144円近辺まで下落したものの、その後は下げ渋りを見せている。利上げを継続する米連邦準備制度理事会（FRB）と、緩和姿勢を継続する日銀のスタンスの違いから、ドル円は底堅い推移を見せており、緩やかな上昇基調が続くとみられる。なお、145円近辺では上値を抑えられやすい展開が見込まれる。なお、ここを抜けてくると一段高の可能性が高まりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、143.00～147.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、3日に日銀短観（9月調査）、米9月製造業PMI確報値、米9月ISM製造業景況指数、米8月建設支出、4日に米8月製造業受注、5日に米9月ADP雇用統計、米8月貿易収支、米9月サービス業PMI確報値、米9月ISM非製造業景況指数、6日に米新規失業保険申請件数、7日に日本8月勤労者世帯家計調査、日本8月景気動向指数、米9月雇用統計などがある。

【ユーロドルは戻り歩調が継続か】

ユーロドルは軟調な流れが続いてきた。イタリアで極右主導の新政権が誕生する見通しやウクライナ情勢でのロシアの強硬姿勢や天然ガス供給への警戒感、そしてドルの堅調な流れなどを背景に28日に0.9536近辺まで下落した。

その後、英中銀による英国債の買い入れで英債利回りが低下すると、市場に安心感が広がり、ポンドドルが上昇して、追隨してユーロドルも0.97台半ばまで上昇した。29日発表の9月の独消費者物価指数は前年比+10.0%となり、事前予想の+9.5%、前回の+7.9%を大きく上回った。これを受けてユーロ買いの動きとなって、ユーロドルは0.98台に乗せてきた。

欧州中央銀行（ECB）は9月8日の理事会で0.75%の利上げを行った。ECB当局者からは10月の理事会でも0.75%の利上げを主張する声が多く出ている。9

月の独消費者物価指数の上振れで、一部では1.00%の利上げに動くとの見方も出ており、ユーロ高につながっている。

ドル高の動きが一服しつつある中、ECBによる大幅利上げ観測により、ユーロドルは堅調に推移して、戻り歩調が継続するとみられる。ただ、ユーロ圏の景気減速への警戒感も根強く、経済指標の結果次第では上値を抑えられそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、0.9600～1.0100ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、3日にスイス9月消費者物価指数、独9月製造業PMI確報値、ユーロ圏9月製造業PMI確報値、英9月製造業PMI確報値、4日に豪8月住宅建設許可件数、豪中銀(RBA)政策金利、ユーロ圏8月生産者物価指数、5日にNZ準備銀行(RBNZ)政策金利、独8月貿易収支、独9月非製造業PMI確報値、ユーロ圏9月非製造業PMI確報値、英9月非製造業PMI確報値、6日に豪8月貿易収支、独8月製造業受注指数、ユーロ圏8月小売売上高指数、7日にスイス9月雇用統計、独8月鉱工業生産指数などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。